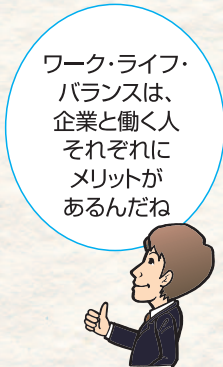




ワーク・ライフ・バランスとは？ (仕事と生活の調和)

ワーク・ライフ・バランスは、一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できることです。(内閣府「ワーク・ライフ・バランス憲章」より)

また、働き方を見直すことで、従業員の士気が高まり、生産性や企業イメージの向上、優秀な人財の確保・定着などのメリットがあるとされています。

ワーク・ライフ・バランスは、共働き世帯の増加や高齢化の進行等に伴い、子育てや介護等の時間的制約が増える中、多様な人財が意欲を持って働くことができる環境を整備することで、企業にとって必要な人財の流出や長時間労働などの様々な現状を打開するための「経営戦略」なのです。



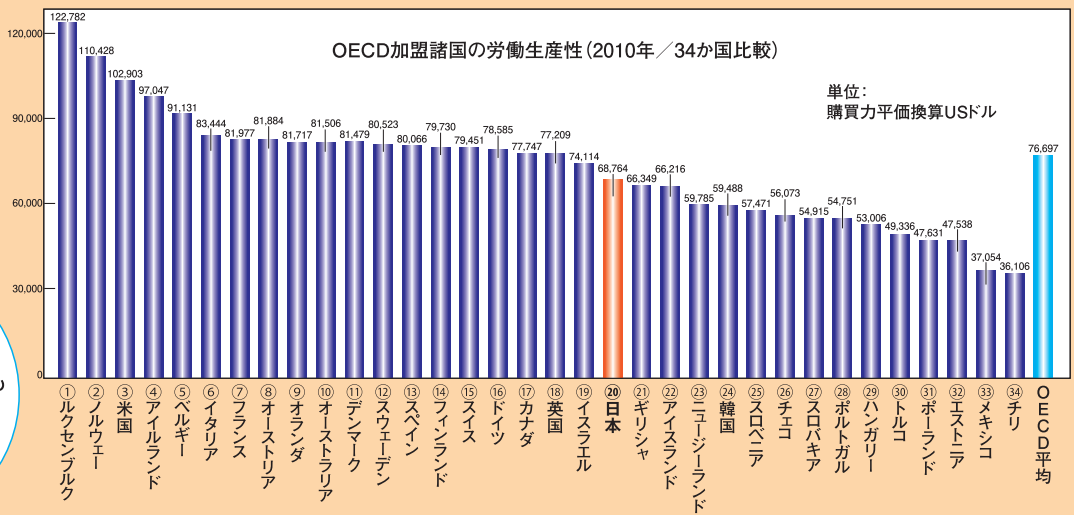
始まりは?  

ワーク・ライフ・バランスとは、実は1990年代にアメリカ・イギリスなどで、不況期における女性や多様な人材確保のため、社員の働きやすさと生産性の向上を両立させる方策として考え出されたものです。

日本では、5~6年前から企業や行政機関に広まり始めました。

日本の労働生産性は世界第20位

長い時間働けば、さぞかし高い成果が上がっていると思われそうですが、日本の就業者1人当たりの労働生産性は、OECD加盟の34か国中第20位、主要先進7か国では最下位、加盟国の平均値を下回っています。つまり、働く時間が長い割には、生産性が上がっておらず、働き方や仕事の進め方の見直しが必要です。



テキパキと仕事して、生産性を高めることもワーク・ライフ・バランスの効果なんです!



出典:公益財団法人 日本生産性本部「日本の生産性の動向 2012年版」